



大阪城公園周辺地域イノベーションプラットフォームの設置(案)

～国際的なイノベーション拠点形成に向けた取り組み～

2025年3月25日(火)

イノベーションプラットフォーム設立の趣旨・目的	…P.1
1. 産官学連携による 都市課題の解決	…P.3
2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催	…P.6
3. スタートアップ支援と人材育成	…P.10
イノベーションプラットフォーム組織	…P.11

【総論】

これからのまちづくりの発展には、

○サスティナビリティ

- ・環境にやさしいまちづくりはもちろん、経済的な持続性も重要。

○ひとづくり

- ・「まちづくりはひとづくり」と言われるように、まちを活性化させるのは「ひと」。
まちを活性化させる様々な「ひと（人材）」を育成。
- ・特に、これからのまちづくりに必要不可欠なDXを担う人材も育成。

○人間中心の豊かな生活の実現

- ・国際性はもちろんのこと、多様な人々の生活や交流、多様性を認めるつながり、コミュニティの形成などを行うコミュニティマネジメントが重要。
- ・そこにはウェルフェア、ヘルスケア、いかにQOLを高めるかといった視点も。

など、幅広く取り組む必要がある。

まちづくりには、さまざまな要素を検討する必要があるが、都市再生緊急整備地域である大阪城公園周辺地域では、

「魅力ある複合的な国際拠点の形成をめざす」（大阪ビジネスパーク周辺・京橋駅周辺）

「イノベーション・コア」（森之宮周辺）

という各地区のキーコンセプトを踏まえ、3エリア一体の大阪城公園周辺地域まちづくり方針をもとに

国際的なイノベーション拠点を形成に貢献するまちづくりを進めるため、**地域内で多くのプロジェクトを生み出すことを目的とするイノベーションプラットフォーム**を設置する。

まずは次のテーマから、プロジェクトを立ち上げていく

1. 産官学連携による都市課題の解決（スマートエネルギー、感染症対策など）
2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催
3. スタートアップ・オープンイノベーションを支える人材育成
（スタートアップアクセラレーションセンター創設検討などスタートアップ支援含む）

大阪公立大学では、産学官民共創で社会課題を解決し、新しい社会を創造する取り組みとして、『イノベーションアカデミー』を創設。

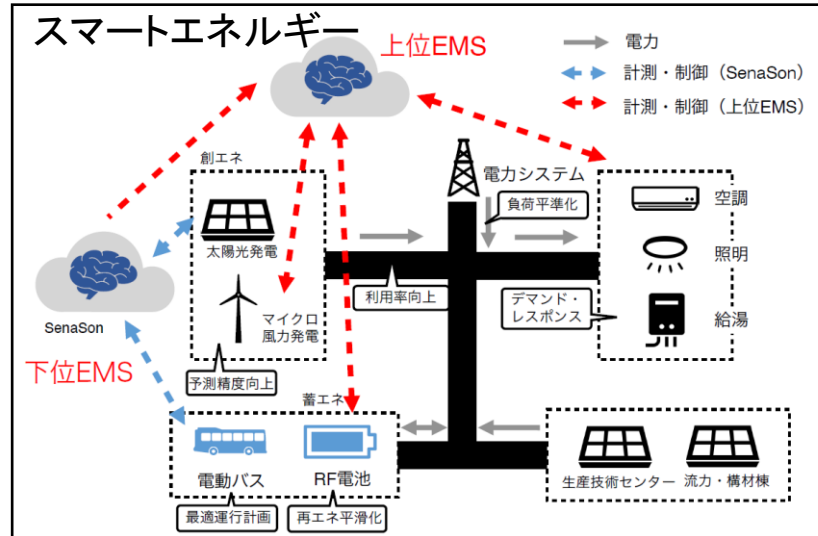
AIをベースとし、5つの共創ユニットを展開

- ・スマートシティ：スマート社会実現に向けた取り組み
- ・スタートエネルギー：次世代エネルギーネットワーク
- ・スマート農業：SDGs駆動型の都市農業構想
- ・スマートヘルスケア：大阪国際感染症センターなどによる未来の医薬・医療への貢献
- ・子ども未来社会：子どもたちが健やかに過ごせる未来社会実現

イノベーションアカデミー事業と連携しながら、まずは**スマートシティ、スタートエネルギー**の分野から、**産官学民連携のもとプロジェクトを生み出して**いく。

1. 産官学連携による都市課題の解決

具体例：「スマートシティ」・「スマートエネルギー」の取り組み



実証結果を森之宮キャンパスに反映



スマートビルプロジェクト

スマートシティ・スマート
ビルの研究開発拠点へ

「都市・キャンパスをプログラムする」の具現化

- ✓ スマートエネルギー棟にビル OS を導入し、空調・照明をはじめとする建物設備の統合運用を実現
- ✓ ビル設備と IoT (Internet of Things) センサ、さらには個人の活動量計などを組み合わせ、さまざまなシーンに最適な環境を実現
- ✓ スマートエネルギー棟自体を教材としたビル OS 実学プログラムなどの実施により、スマートビル人材育成を支援
- ✓ スマートエネルギー棟の実証成果を森之宮キャンパスに展開

具体例：設備のデジタルツインにより構成された設備内マップを用いた自律移動ロボットによる運搬。エレベータ設備と連携したフロア間移動ロボットの実証複数ベンダによるロボットの連携動作実証



さらに大阪城東部地区1.5期開発やOBPに展開

1. 産官学連携による都市課題の解決

具体例：「スマートシティ」・「スマートエネルギー」の取り組み
イノベーションアカデミー棟で研究されているスマートエネルギー技術について、
次の実証実験エリアを検討している

- ・ 大阪城東部地区1.5期開発 …… 新規建物への導入検討（公募中）
- ・ 大阪ビジネスパーク …… 既存建物への導入検討



図：大阪城東部地区1.5期開発

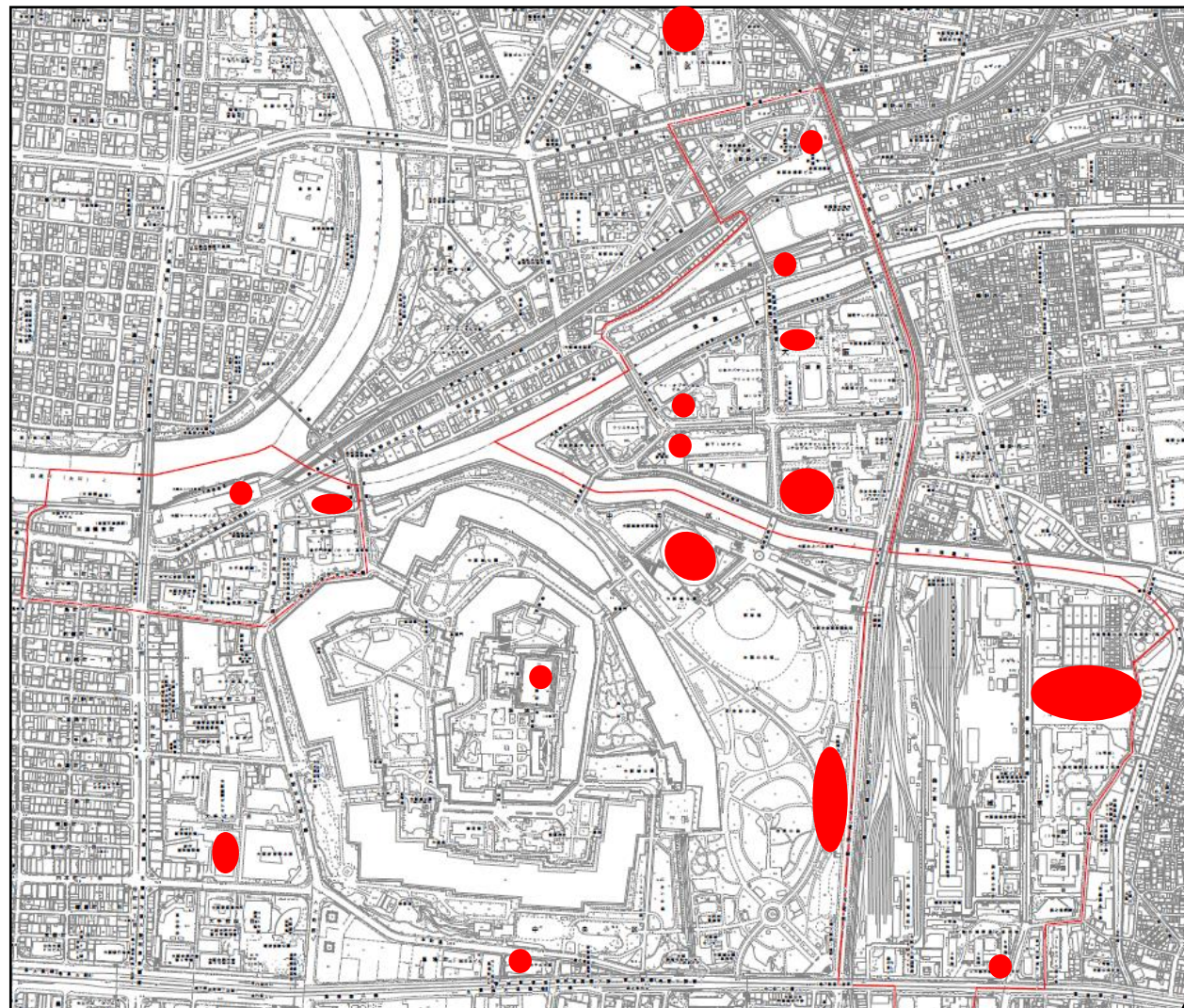


図：OBP （OBP協議会HPより） University All Rights Reserved.

2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催

2025年開催の大阪万博を契機とし、アジア・世界でのトレンドや活動をみながら、どのような国際組織の誘致・設立が適切かを議論し、具体的な誘致活動を進める。

また、大阪公立大学で開催予定のアジアラウンドテーブルや、誘致を進める国際機関と連携し、国際会議・イベントの開催に向けた取り組みを進める。



図：大阪城公園周辺におけるMICE等関連施設

2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催

アジアラウンドテーブル企画概要

大阪公立大学では、産学官民共創の取組み推進に向けた体制づくりを進めている。中でも「都市シンクタンク機能」をより充実させていくため、大阪府・市のみならず、人口増が続くアジア圏の都市へも積極的にPRや、政策立案者へのコミュニティ作りを行っていく。

その一環として、2025年森ノ宮キャンパスの開学に合わせ、大阪公立大学のアジア圏でのグローバルプレゼンス向上を図る事をめざし、アジアや世界の都市課題について、多くのステークホルダーを一同に集め、解決方法を議論しつつ、コミュニティ作りも並行して行う、「アジアラウンドテーブル」を企画している。

例：会場イメージ



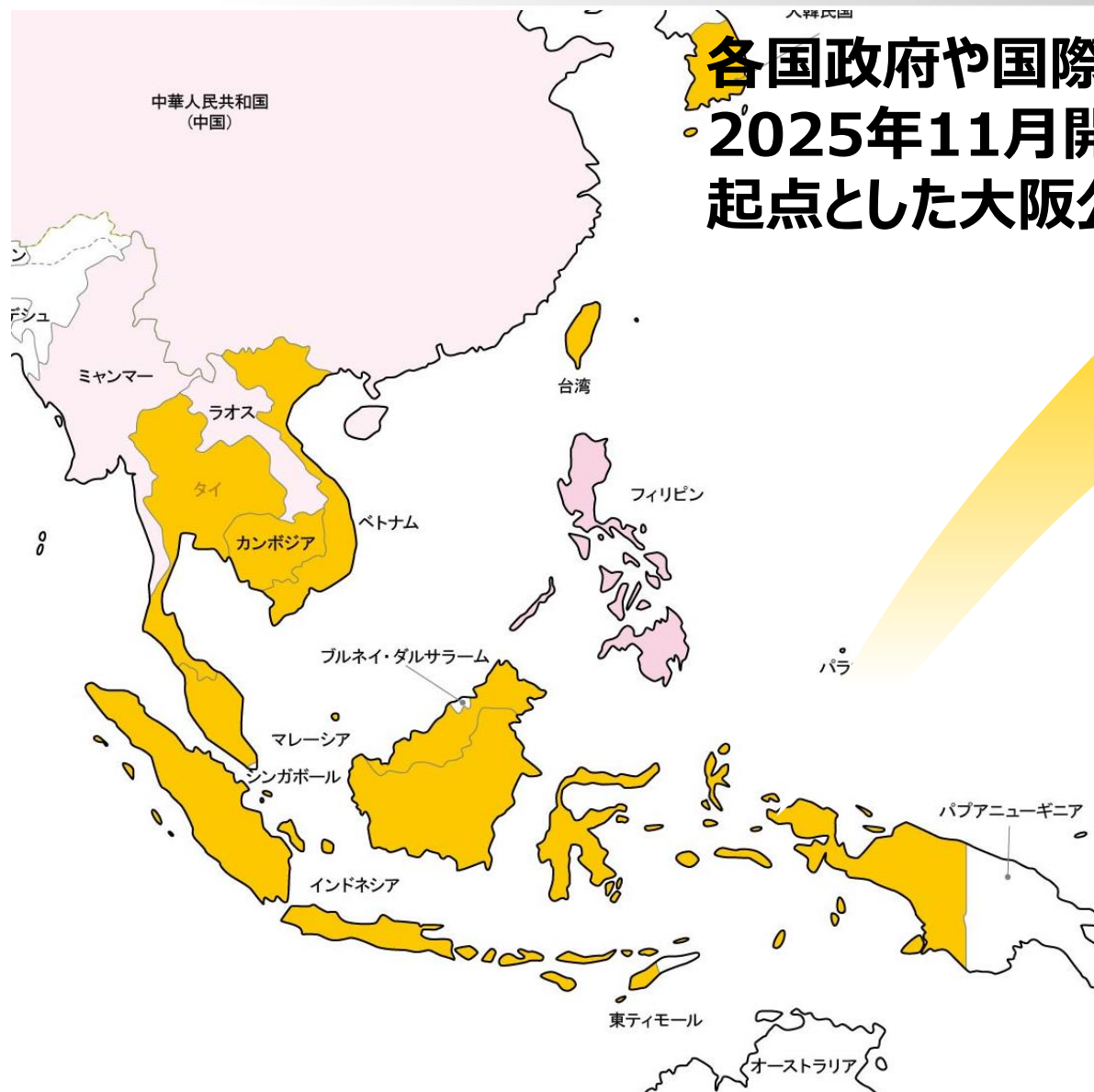
※出典：写真は全て世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターにて開催した過去の国際会議写真を抜粋
<https://centres.weforum.org/centre-for-the-fourth-industrial-revolution/g7urbandevelopment>

2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催

アジアラウンドテーブルでの議論のテーマ案について

	AI・ロボティクス	ヘルスケア	防災	環境・脱炭素/エネルギー	サステナビリティ/ビジネスモデル
主な議題案	AIを活用した政策立案とその課題	デジタル技術を活用した遠隔医療の実践	デジタル技術を活用した都市の防災計画とレジリエンス強化	再生可能エネルギーの経済性と技術革新	都市と郊外（農村）の格差是正をどのように実現するか
	AIの倫理とプライバシー	ヘルスケアにおけるビッグデータの利活用	コミュニティ主導の防災活動と先端技術活用	生物多様性を重視した街づくりとグリーン経済	補助金に頼らないスマートサービスの実装について
	AIとロボティクスの社会実装による生産性向上と課題	高齢社会におけるデジタルヘルスケアの活用と課題	気候変動と災害リスク管理および予算策定	脱炭素化と経済性の両立を都市はどう実現していくか	産官学の連携による新しい運営方法の模索
登壇者候補	各国の政策立案者・政治家	公衆衛生政策やデジタル行政に携わる政府関係者	国際機関の専門家（世銀など）	環境・市民団体のリーダー	各国のデジタル政策に関する有識者、政策立案者
	AI・ロボティクス関係のスタートアップや企業の経営層	遠隔医療などテクノロジー活用に積極的な医療従事者	市民社会のリーダー	サステナブル・脱炭素関係の企業経営層、政策立案者	官民連携組織や大学のリーダー層
	AIや半導体、ロボティクスに関わる大学教授	ヘルスケアに関するテクノロジー企業の経営層・技術者	防災に関する技術をもつ民間企業（航空宇宙・AI・通信）	社会的責任投資を専門とする金融アナリストなど	国際機関や経済団体のリーダー層

2. 国際組織の誘致や国際会議・イベントの開催



**各国政府や国際機関との連携を強化し、
2025年11月開催のアジアラウンドテーブルを
起点とした大阪公立大学のシンクタンク機能強化へ**



【各国政府・国際機関とのこれまでのコミュニケーション】

2023年11月：韓国（国土交通科学技術振興院）

2024年1月：台湾（III、デジタル発展部他）

2024年1月：OECD

2024年2月：タイ（政府デジタル省DEPA、バンコク都）

2024年2月：インドネシア（BAPPENAS、UCLG、他）

2024年4月：インドネシア（東ジャワ州議会）

2024年6月：ベトナム（ベトナム科学技術省、他）

2024年7月：インドネシア（BAPPENAS）

2024年8月：台湾（台湾立法院デジタル政策担当）

2024年11月：インドネシア（BAPPENAS、UCLG）

2024年12月：世界銀行（フィリピンオフィス）

国際機関日本アセアンセンター

3. スタートアップ・オープンイノベーションを支える人材育成



人材育成

スタートアップの創出・育成やオープンイノベーションを促進するため

- 国内外のスタートアップ支援機関・大学との連携等を通じて、共創エコシステムを形成するQUINTBRIDGE (NTT西日本)
- スタートアップシーズを持ち、教育プログラムを実施する大阪公立大学
- 情報系企業を中心にスタートアップと親和性の高いOBP協議会

が連携し、スタートアップ系、およびDX系の人材を育成

スタートアップ支援

スタートアップを支える人材のみならず、スタートアップ育成に向けた拠点となる、(仮)スタートアップアクセラレーションセンターの設立に向けた検討を開始

スタートメンバー

- ・ 一般社団法人大阪ビジネスパーク協議会
- ・ 西日本電信電話株式会社（NTT西日本）
- ・ 大阪府・大阪市
- ・ 公立大学法人大阪（大阪公立大学）

今後、必要に応じて地権者や関係団体、企業などを追加し、広範な意見を取り入れ、プロジェクトを生み出していく。

スケジュール

都市課題
解決

2025

スマートエネルギー等検討開始

◆9月森之宮新キャンパス開校～実証実験導入検討・実施

◇OBP・大阪城東部地区1.5期展開検討開始

2026

2027

2028

◇森之宮1.5期キャンパス
開校(2028年度予定)

国際

国際会議や国際機関の誘致検討

◆11月(予定)アジアラウンドテーブル開催・サイドイベントの企画・開催

◇国際イベントの誘致・開催

人材育成
スタートアップ

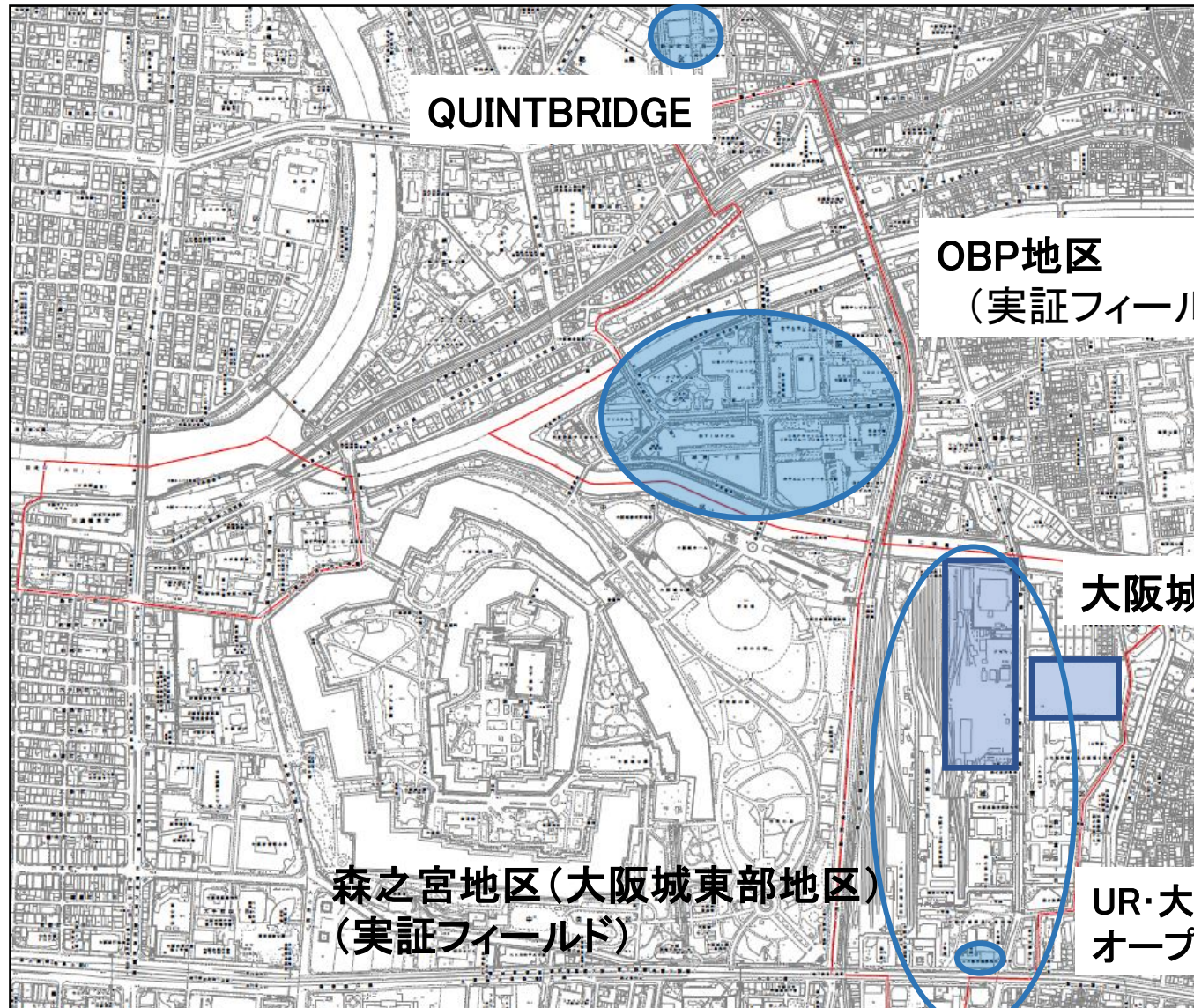
テーマに沿った人材育成プロジェクト組成開始

スタートアップ支援組織検討開始 ～ 地区の開発に合わせた検討

※新たなメンバーも加え、さまざまなプロジェクトを検討し、生み出していく

イノベーションプラットフォーム設立の趣旨・目的

イノベーション誘発に向けた地区のポテンシャル（位置）



OBP地区

（実証フィールド+情報系企業の集積）

大阪城東部地区1.5期開発（公募）

大阪公立大学

+ 情報学研究科（2028以降）

森之宮地区（大阪城東部地区）
（実証フィールド）

UR・大阪公立大学

オープンイノベーションラウンジ森之宮ほとりで

大阪城公園周辺地区

1. 産官学連携による都市課題の解決

参考資料 施設



(イメージ)

イノベーションアカデミー棟と スマートエネルギー研究テーマ

電力需
要予測

- ・機械学習を用いた
電力需要・再エネ
予測

EMS
開発

- ・深層強化学習を
用いたデータ
駆動型EMS

機械学習
の透明化

- ・XAIを活用した
予測・制御の
可視化

データセ
キュリ
ティ

- ・Blockchainを
用いたセキュリ
ティ対策手法

実証

- ・リアルタイム
シミュレーション
- ・IA棟機器での実証

UR都市機構と大阪公立大学によるオー プンイノベーションラウンジ「ほとりで」 (旧UR西日本支社庁舎1階)

団地居住者や学生、まちづくり関係者らが、地
域の価値を再発見し、環境問題や地域課題を自
らの知識や経験で解決することに挑戦できる実験
場。まちと関わりながら、新たな都市居住の形を情報
発信。R7.4から徐々に取り組みを開始。



(イメージ)



UR森之宮ビル1階

参考